

塩見まきこの東奔・西走・南船・北馬

11月6日・7日は東京へ。6日は自転車政策、国の再生可能エネルギー関連予算、消費者行政について、7日は一般質問でも取り上げた公共施設マネジメントについての講座を受講しました。



また、講座の合間を縫って埼玉県三郷市で、職員研修と市民参画、総合計画について調査。あわせて市の放射能除染作業現場を案内していただきました。これが行政の日常業務になっていることは少なからずショックでした。



12月1日は、京都府立大学で開催された日本評価学会の第13回全国大会に参加。今年度、生駒市議会が実施した決算審査における事業評価についての取り組みについて事例発表を行いました。

事業評価を行っている議会は全国的にもまだ少なく、特に、行政が事業評価を行っていない自治体での実施例は珍しいものです。他市の議員や市民の集まるシンポジウム等でパネリストを務めることは時々ありますが、研究者を前にというのは学生以来で、やや緊張。ここでいただいたご助言を来年度の事業評価に生かし、精度を高めたいと思います。



11月10日は多治見市で開催された総合計画シンポジウムへ。第3次分権改革で、地方自治体の総合計画の策定義務がなくなり、なくなったあとの自治体の姿勢、作るのか作らないか？作るとしたらどうやってどのようなものを作るのか？が問われています。

従来から総合計画を政策集と位置づけ、積極的に策定の意義を見出してきた武蔵野市と多治見市の互いに対照的な計画の策定の手法を学んできました。計画を作ることが目的化しているまちが多いなかで、コンサルを一切入れず、実行できる計画をつくってきた両市の職員の意気込みを感じました。



12月定例会開会前日、全市的に小中一貫教育に取り組んでいる宇治市教育委員会に視察に参りました。

宇治市は、生駒市のように小中一貫ありきで進めたわけではなく、生駒市と同じように地域間での生徒数の偏りや小規模校の問題が市の課題としてあり、その課題の検討の過程で問題解決方法として出てきた



ものです。写真は、本年4月に開校した施設一体型小中一貫校の宇治黄檗学園の9学年の職員室と教室前の廊下に配された学習指導スペースです。



生駒市議会市民懇談会を開催

2月2日・3日、生駒市議会は、市役所ほか3か所で市民懇談会を開催しました。今回からは開催要綱も作成しての本格実施です。PR不足か、110名の皆さまにしかお越しいただけなかったのは残念でしたが、会場でいただいたご意見を政策に反映できる議会を目指しています。次回以降のご参加をお待ちいたしております。



ブログ「塩見まきこの活動日記」とツイッターもご覧ください。

●ブログ「塩見まきこの活動日記」はこちらから
⇒<http://katudo403.exblog.jp/>
議会活動・議員活動を中心に報告しています。忙しいと更新が滞って、まとめ書き日記になりますが…。

●ツイッターはこちらから
⇒<https://twitter.com/SHIOMIMAKIKO>
お気軽な話題はツイッターで。私的なこともつぶやきます。山下市長とここで議論が炎上することも。



12月定例会終了後も、議会のしごと（市民懇談会の準備・企画総務委員会のテーマ別調査まとめ・議会基本条例素案作成作業部会等）に追われ、ようやく2013年冬号をお手元お届けすることができました。ご感想をお寄せいただければ幸いです。

■3月定例会の見どころをご説明いたします！

議会って敷居が高い、難しいことを話し合っていて、傍聴してもわかるかしら？…大丈夫。今まで傍聴されたことのない皆さまにも議会傍聴の方法や審査の流れから注目の議案まで、見どころ、聴きどころを塩見がわかりやすくご説明いたします。ぜひご参加ください。

議会を知ろう！傍聴に行こう！

～塩見まきこの3月定例会議案説明会～

- 日時：3月3日(日)
13時半～15時半
- 場所：コミュニティセンター
401会議室





議会と行政にホンモノの緊張関係を！
しおみ
塩見まきこ
市議会ニュースレター



2013年 冬号

発行責任者：塩見牧子 〒630-0213 生駒市東生駒1-215-402 TEL:0743-75-3403 FAX:0743-74-8518 e-mail:shiomim753@yahoo.co.jp

どうした？山下市政！ 相次ぐ計画なき行政運営

10月26日の全員協議会で、「高山スーパースクールゾーン構想」（小中一貫校・幼保連携型認定こども園・給食センターの新設）と「南こども園」（幼保連携型こども園）創設について、市から報告がありました。また、11月19日の全員協議会では、奈良市消防との指令業務共同運用の計画とスマートコミュニティに対する推進奨励金交付（条件に沿った環境配慮設備を備えた一定規模以上の新規住宅街を開発する場合、業者に対して戸数に応じた補助金を交付する事業）について報告がありました。

いずれも、平成24年度の実施計画はおろか、総合計画にもあがっていない寝耳に水の事業です。市長任期もあと1年に迫った今、このような思いつきともとられかねない事業を、予算の裏づけもないまま、かなりできあがった形で立て続けに出してくるのはいったいどういうわけでしょうか？

* 教育的観点からの検討はなし？

「高山スーパースクールゾーン構想」は、生駒北小学校地内に北小と北中を施設一体型小中一貫校として新設し、生駒北中学校地内に高山幼稚園と私立北倭保育園を一体化する認定こども園と給食センターを新設、空いた中学校体育館を地域に開放し、高山幼稚園跡地はグラウンド整備するというものです。一方、「南こども園」は、南幼稚園敷地内に南幼稚園とみなみ保育園を幼保連携型こども園として新設するものです。

全員協議会では、すでに美しくカラー印刷されたパンフレットをもって、構想の説明がありましたが、小中一貫に関する全国の事例にみられる一般的なメリットが述べられただけで、教育や保育の観点での検討結果について報告はまったくなく（公式に教育委員会でも検討されていないので、報告できなくて当然です。）、耐震補強や校舎・園舎の老朽化のためのハード整備が先行した構想との感は否めませんでした。

* 耐震補強工事も済んでいるのに取り壊して新設？

しかし、そのハード整備も、北小、北中は、どちらも平成20年に耐震補強工事を完了しています。もちろん、その間にも大地震は起こる可能性があったわけですから、工事そのものを無駄だとは思いませんが、それらを取り壊して新校舎を建設するというのですからもったいない話です。

ハード面から入る小中一貫校構想を肯定するものではありませんが、仮にそれを是としても、では、なぜ耐震化の検討をする際に小中一貫校の検討がなされなかったのか。市全体の事業を俯瞰（ふかん）的に捉えた事務が執行がなされていないということです。

* スマートでないスマートコミュニティ奨励金交付事業

一方、スマートコミュニティへの推進奨励金交付事業も数々の問題を抱えています。

まず、奨励金交付の認定こそ全員協議会の翌日であったとはいえ、また、要綱は議決事項ではないとはいえ、議会への報告の一週間前の11月12日に奨励金交付要綱が制定され、対象となる住宅開発地と事業者も内定していた（白庭台みなみ丘・ミサワホーム）というのは、予算を伴う事業の進め方として大いに問題です。

本来は、総合計画の施策に基づいた事業の実施計画を示したうえで、予算案を提出し、それが通って要綱を作り、その要綱に沿って対象開発地と事業者を広く応募し選定するのがスジです。

事業費は、25年度当初予算として計上される予定ですが、議会が否決した場合の影響（事業者や業界の生駒市に対する信用失墜）を考えると、こういう手法は行政による脅しに近いものです。

* 市長の裁量が大きすぎる要綱は問題！

そもそも、この奨励金を受けるには、いろんな認定要件があるのですが、市長がやむを得ないと認めるものについては除外とする規定があります。

たとえば、要綱では50戸以上の住宅開発地を交付対象とすることになっていますが、20日に生駒市で開催された「環境首都創造自治体全国フォーラム」において、市長は40戸くらいでも交付すると発表しています。エリア全体をスマート化してこそ個人ではなく事業者に交付する意味もありますが、例外を認めると個人で同等の設備を設置する方との公平性が保てません。

（次ページに続く）